

令和 6 年度トライアル事業について

令和9年度以降の地域移行に向け、運営体制、施設管理、学校や指導者（団体）との連携など、様々な観点から成果と課題を検証し、市の実態に合った地域移行のスキームである「調布モデル」の構築を目指します。

令和6年度トライアル事業のイメージ

合同部活動の実施

既に実施されている合同部活動の実態の把握に努めるとともに、トップスポーツチームとの連携による競技力向上の取組を実施しながら、今後の地域資源活用の方角を検討



地域連携

地域移行

地域クラブ活動のモデル実施

様々な種目について、地域クラブ活動としてのモデル実施を重ねながら、生徒のニーズ把握や、地域クラブ立ち上げを見据えた課題の整理を行い、地域移行の全体スキームを検討

トライアル事業の評価・分析

PLAN

事業計画

DO

事業実施

PDCA
サイクル

ACTION

評価・分析を踏まえた
改善・軌道修正

CHECK

成果や課題の整理
取組の評価・分析

「調布モデル」の検討・制度構築

生徒がスポーツ・文化芸術活動を継続的に
行えるよう、持続可能な仕組みを構築

令和6年度トライアル事業の概要について

令和6年度は、運動系として、トップスポーツチームとの連携による合同部活動での競技力向上のための練習会や、既存の部活動にない種目による地域クラブ活動モデル事業を実施しました。文化系では、既存部活動についてモデル事業を実施しました。

令和6年度トライアル事業の概要

合同部活動

サッカー部×FC東京



トップスポーツチームとの連携による競技力向上のため、サッカー部の合同部活動にFC東京の指導者を派遣し、練習会を実施

軟式野球部×読売ジャイアンツ



トップスポーツチームとの連携による競技力向上のため、軟式野球部の合同部活動に読売巨人軍の指導者を派遣し、練習会を実施

地域連携

地域移行

地域クラブ活動モデル事業

マルチスポーツ

玉川大学教育学部准教授及び同大学学生による運営のもと、ニュースポーツを中心に複数の種目をゆるく楽しく体験

スポーツクライミング

東京2020大会で関心が高まったアーバンスポーツの一つ、スポーツクライミングの体験会を市内のクライミングジムと連携して実施



囲碁

- 既存部活動の地域移行を検証
- 顧問を置かず、外部指導者による部活動運営を試行的に実施

- 部員数の減少等により，既に合同部活動を実施している一部のサッカー部と軟式野球部において，市ゆかりのトップスポーツチームであるFC東京及び読売巨人軍と連携し，競技力向上に資する活動（専門的見地からの技術指導を中心）を実施

種目	対象学校	実施日	場所
サッカー	第三中，第七中	令和7年1月11日（土）	第三中学校 校庭
	調布中，第五中	令和7年2月16日（日）	調布中学校 校庭
軟式野球	第四中，第六中	令和7年 2月1日（土）	第四中学校 校庭



地域クラブ活動モデル事業（マルチスポーツ）

- 玉川大学教育学部と連携し、生徒の多様なニーズに対応するため既存部活動にない取組として実施
- ニュースポーツを中心とした複数種目（ダンス、テニスバレー、ベースボール5、ディスクサッカー）を大学生と一緒にゆるく楽しく体験

実施日・実施場所		参加人数
第1回	令和6年12月15日（日）第四中体育館	9人
第2回	令和6年 1月12日（日）第六中体育館	3人
第3回	令和7年 1月25日（土）第一小体育館	参加者が集まらなかったため中止
第4回	令和7年 2月 8日（土）第一小体育館	3人



地域クラブ活動モデル事業（スポーツクライミング）

- 市内のクライミングジムに協力をいただき，東京2020大会からオリンピック種目に追加されたアーバンスポーツの一種であるスポーツクライミングの活動を実施

実施日		実施場所	参加人数
前期	令和6年12月14日（土）	クライミングジム WEST ROCK調布店	7人
	令和7年 1月18日（土）		
後期	令和7年 2月15日（土）		7人
	令和7年 3月15日（土）		



地域クラブ活動モデル事業（囲碁）

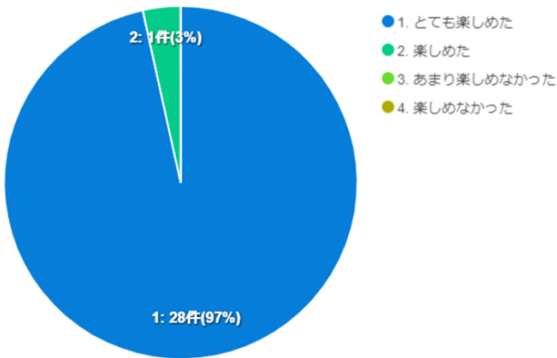
- 調布囲碁連盟の協力の下、平日の部活動に指導員を派遣した生徒への指導を実施したほか、月2回程度の土曜日における囲碁教室にも生徒が参加した。

実施期間	実施場所	参加人数
令和7年1月から3月まで	調布市立第六中学校ほか	10名程度／日 (土曜日は3名程度)

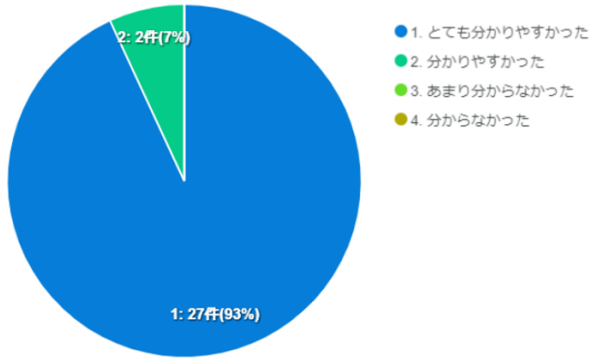


アンケート結果（マルチスポーツ、スポーツクライミング）

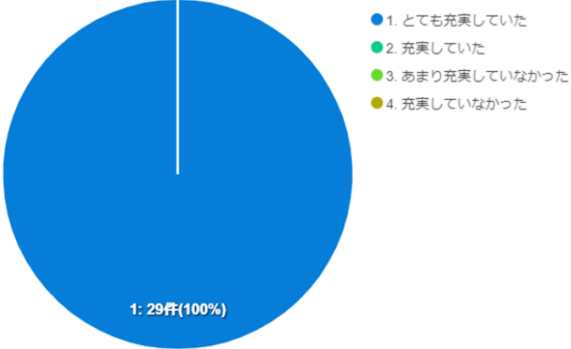
■ トライアル事業を楽しむことができましたか。



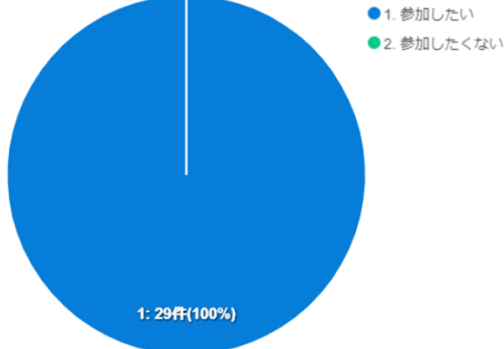
■ 指導者の教え方や説明は分かりやすかったですか。



■ 体験した活動の内容は充実していましたか。



■ 今後もトライアル事業に参加してみたいですか。



■ 今後のトライアル事業としてやってみたい種目、活動はありますか。

外種目、スリッパ卓球、バスケ、テニス、野球、バドミントン、ドッチビー、ハンドボール、ロック・クライミング、フェンシング、ダンス

■ 新しく立ち上げるクラブ活動について、生徒が参加してみたいと思ってもらうためには何が必要だと思いますか。
(2つまで選択可)

- | | |
|---------------|-----|
| ①魅力的なクラブ活動の紹介 | 13件 |
| ②実際の活動体験 | 21件 |
| ③各種イベントの開催 | 9件 |
| ④具体的な成果の紹介 | 4件 |
| ⑤サポート体制の紹介 | 5件 |

【成果】

- 合同部活動では、市の地域資源の活用について模索するなかで、FC東京と読売ジャイアンツと連携し、競技力向上の機会とした。こちらは、元プロの選手や、チームのコーチなど、専門的な指導を受けられるという点で、生徒たちにとって有意義の機会となった。
- マルチスポーツでは、玉川大学の学生と一緒に各種目を体験し、多世代交流の観点からも、今後の有用なモデルの一つとなった。
- スポーツクライミングでは、東京2020大会やパリ2024大会で人気となったアーバンスポーツの一つを、市内の民間施設と協働で実施する事例を創出
- 囲碁部では、市内大会への参加につながったほか、囲碁の段位を取得するなど、生徒が意欲的に活動していることが伺える。
- アンケート結果から、参加した生徒の満足度は非常に高い結果（100%の人が「充実していた」と回答）
- いずれも、応募・保険加入・運営、また先方との協議調整を市側で行うことで、地域クラブ運営の実務の実態を把握することができた。

【課題】

- 合同部活動については、令和9年度以降を見据え、トップスポーツチームの関わり方をさらに模索することが必要（地域クラブに広く還元できるような関わり方）
- 地域クラブのモデル事業として実施した新規種目は、生徒の集客が想定よりも難航したのが実態。今後はニーズ把握の手法（ターゲットや実施方法）の再検討などが必要
- 囲碁部については、外部指導者が技術指導以外の部分についてどのように関与するか整理していく必要
- 令和7年度は、既存の部活動種目において、外部指導員などが入っていないケースへのアプローチが必要
- 運営体制などについては、保険や緊急対応、学校施設を含む、教員との調整など、実施に係る調整業務は多岐にわたることから、今後は、各ステークホルダーの役割を整理することが必要